

配付資料との主な変更箇所表

ものづくり技術分野			配付資料との変更点
配付資料			
頁	行	該当箇所	
217	7	具体的には、次世代ものづくりイノベーションを支える科学に立脚した新たな製造プロセス開発を目指し、	具体的には、 次世代ものづくりイノベーションを支える科学に立脚した新たな製造プロセス開発等を目指し、
217	8	革新的ものづくり技術の基盤となる先端計測分析技術や、その技術に基づく機器の開発、MEMS 等の精密加工技術の開発、ものづくり現場と親和性の高い高度シミュレーション技術の開発、ものづくりから廃棄にいたる実作業と対応付けた知識を構造化したデータベースの開発、CAD 等の既存デジタルエンジニアリングシステムと連携して新たな価値を創造する知識マネジメントシステムの開発等を…	<u>革新的ものづくり技術の基盤となる先端計測分析技術や、その技術に基づく機器の開発</u> <u>MEMS 等の精密加工技術の開発</u> <u>ものづくり現場と親和性の高い高度シミュレーション技術の開発</u> <u>ものづくりから廃棄にいたる実作業と対応付けた知識を構造化したデータベースの開発</u> <u>CAD 等の既存デジタルエンジニアリングシステムと連携して新たな価値を創造する知識マネジメントシステムの開発</u> <u>等を…</u>
217	6	科学に立脚したものづくり支援技術を推進する。	科学に立脚したものづくり <u>基盤支援</u> 技術を推進する。
210	19	重要視されて来た。	重要視されて <u>きた来た</u> 。
217	13	合わせて、これらの技術を駆使してプロセスイノベーションの創出を実行する人材の育成を行う。	合わせて、 これらの技術を駆使してプロセスイノベーションの創出を実行する人材の育成が <u>期待される</u> を行う。
217	27	普及した場合の波及効果は極めて大きいものの、従来プロセスの大幅な転換を余儀なくされる場合もあり、	普及した場合の波及効果は極めて大きいものの、従来プロセスの大幅な転換を <u>余儀なくされる</u> 伴う場合もあり、

217	31	代表的な例として、液晶ディスプレイ等の表示デバイスの製造法をロールtoロール製造法に代替するプロジェクト等が挙げられる。	代表的な例として、液晶ディスプレイ等の表示デバイスの製造法をロールtoロール製造法に代替するプロジェクト等が挙げられる。
217	36	…精選し、推進する。	…精選し、推進する。 <u>具体的には、超フレキシブルディスプレイ部材や超ハイブリッド部材の製造技術、ガラス材料の高機能化のための超精密加工技術等の新たな高付加価値材料を生み出す製造技術や加工技術、人口減少社会に適應する産業用ロボット技術、有害物質を排出しない材料の製造技術が該当する。</u>
218	34	企業だけでは投資のリスクを負えないような、大型の研究開発であって…	企業だけでは投資のリスクを負えないような、 大型の 研究開発であって…
219	7	特にわが国の企業が決して世界的にイニシアチブをとっていない分野に関するもの	特にわが国の企業が 決して 世界的にイニシアチブをとっていない分野に関するもの
219	18	ノウハウ等の現場の技術を維持、確保するための実践的な人材育成を推進し、特に有能で経験豊かな中高年人材の活躍促進の機会や仕組みを構築する。	ノウハウ等の現場の技術を維持、確保するための実践的な人材育成を推進し、 する。 <u>特にまた、</u> 有能で経験豊かな中高年人材の活躍促進の機会や仕組みを構築する。
219	22	高等教育機関と企業との連携によるものづくり技術の実践の場の提供を通じた高度専門人材の育成施策等について、産学官が緊密な連携を図りつつ推進していくことが必要である。	高等教育機関と企業との連携によるものづくり技術の実践の場の提供等を通じた高度専門人材 <u>や実践的・創造的技術者</u> の育成施策等について、産学官が緊密な連携を図りつつ推進していくことが必要である。
221	11	ものづくり知的基盤の強化	ものづくり知的基盤 <u>等</u> の強化
222	8	知識の構造化と融合化の過程でものづくりに寄与する人材の教育を行う。	<u>こうした</u> 知識の構造化と融合化の過程 <u>でを活用して、</u> ものづくりに寄与する人材の教育を行う <u>ことが期待される。</u>
222	19	アジア発信の共通標準化や	アジア 発信 の <u>技術の国際共通</u> 標準化や

配付資料との主な変更箇所表

社会基盤分野			配付資料との変更点
配付資料			
頁	行	該当箇所	
232	33	・・・防災科学技術を保持してきた。全国的な地震動予測地図を目標どおり完成し、・・・	・・・防災科学技術を保持してきた。 <u>全国的な全国を概観した</u> 地震動予測地図を目標どおり完成し、・・・
233	27	・・・これらの地震の高精度予測とともに、被害を未然に防止する従来の防災技術に加え、災害発生に備えた耐震設計・補強等の減災技術が重視されるようになってきた。また、・・・	・・・これらの地震の高精度予測とともに、被害を未然に防止する <u>ことを目的とした</u> 従来の防災技術に加え、 <u>災害発生に備えた耐震設計・補強や避難対策</u> など、 <u>万一の場合にも被害を減らすための</u> 減災技術が重視されるようになってきた。また、・・・
235	24	・・・技術レベルの高いセキュリティエレクトロニクスを活用しつつ、市場が限定されることも踏まえて・・・必要のある研究開発課題は次の通り。	・・・技術レベルの高いセキュリティエレクトロニクスを <u>も</u> 活用しつつ、 <u>開発された技術を適用した製品の</u> 市場が限定されることも踏まえて・・・必要のある研究開発課題は <u>を</u> 次の通り <u>選定する</u> 。
237	9	なお、大量交通輸送機関の大気汚染や海洋汚染については、・・・	なお、大量交通輸送機関 <u>の</u> による大気汚染や海洋汚染については、・・・
237	21	(挿入)	<u>なお、防衛技術の重要な研究開発課題は、防衛力整備上の観点を踏まえてつ別途検討する。</u>
238	17	高度経済成長期に大量に建設された社会資本等の老朽化が進み、大更新時代を迎えつつある。また、2005年より人口減少するなど少子高齢化が急速に進んでいる。	高度経済成長期に大量に建設された社会資本等の老朽化が進み、大更新時代を迎えつつある。 <u>一り、また交通輸送体系への信頼が揺らいでいる。またさらに、</u> 2005年より人口減少するなど少子高齢化が急速に進んでいる。
238	36	・・・自然地震観測による地殻構造調査、海底地震観測、GPS連続観測等の観測技術開発と整備に係わるもの。	・・・自然地震観測による地殻構造調査、海底 <u>を含む稠密な</u> 地震観測、GPS連続観測等の観測技術開発と整備に係わるもの。

239	6	(技術の範囲)衛星による災害監視・情報利用技術および準天頂衛星を利用した高度測位実験システム。	(技術の範囲)衛星による災害監視・情報利用技術および準天頂衛星を利用した高 <u>精度</u> 測位実験システム。
239	18	…および減災対策の有効性評価のための実大破壊実験と破壊シミュレーション技術開発。	…および <u>減災対策の有効性耐震性</u> 評価のための実大破壊実験と破壊シミュレーション技術開発。
240	1	地域の自助・共助力の向上のために、社会基盤の脆弱性を把握し、相互依存性を評価するとともに、…	地域の自助・共助力の向上のために、 <u>社会基盤の相互依存性を</u> を勘案して各種災害に対する <u>社会の脆弱性を把握しや、相互依存性社会経済等への影響</u> を評価するとともに、…
240	11	災害現場の第1対応者の活動および社会経済活動の復旧に必要な情報収集・提供を行う技術において、	<u>情報収集・提供等</u> の災害現場の第1対応者の活動および社会経済活動の復旧に必要な <u>情報収集・提供を行う</u> 技術において、
240	31	…3次元顔画像個人識別、DNAプロファイリング、毒物や微細証拠鑑定のための物質同定技術や子供の安全を守る技術。	…3次元顔画像個人識別、DNAプロファイリング、毒物や微細証拠鑑定のための物質同定技術や、 <u>学校及び通学路における</u> 子供の安全を守る技術。
241	25	…IT技術の活用による航空交通管理技術、小型航空機管制技術、運転者から直接見えない範囲の…	IT技術の活用による航空交通管理技術、 <u>小型航空機管制技術全天候・高密度運航技術</u> 、運転者から直接見えない範囲の…
242	9	…「海洋地球観測探査システム」を構築し、我が国周辺及び地球規模の統合的なデータの収集、処理、解析、分析、提供を行っていく必要がある。このシステムは、我が国が独自に、我が国周辺及び地球規模の災害や危機管理情報および地球観測の情報等をデータセットとして一元的に管理・運用するものであり、我が国が災害や地球環境問題等の解決に積極的かつ主導的に取り組むための基盤となるものである。	「海洋地球観測探査システム」を構築し、 <u>我が国周辺及び地球に関する規模の多様統合的な</u> データの収集、 <u>統合化処理</u> 、解析、 <u>分析</u> 、提供を行っていく必要がある。このシステムは、 <u>我が国が独自に、我が国周辺及び地球規模の災害情報や危機管理情報および地球観測の情報等をデータセットとして作成・提供一元的に管理・運用するものであり、我が国が災害等の危機管理や地球環境問題等の解決に積極的かつ主導的に取り組むための</u> 基盤となるものである。…
243	12	地震調査研究については、地震調査研究推進本部において政府としての一元的な推進体制が図られている。一方、地震等の地変災害のみならず気象災害等の調査研究等を含めた防災対策に関する研究開発は、…	地震調査研究については、地震調査研究推進本部において政府としての一元的な <u>総合的</u> な推進体制が図られている。一方、 <u>地震等の地変災害のみならず気象災害等の調査研究等を含めた</u> 防災対策に関する研究開発は、…

245	2	<p>・・・我が国の状況を十分考慮した上で積極的な取組を推進する。さらに、国際的な技術貢献を適切に行うためには、・・・</p>	<p>・・・我が国の状況を十分考慮した上で積極的な取組を推進する。<u>なお、連携に際し機微な情報を含む場合は、その取り扱いに留意する。</u>さらに、国際的な技術貢献を適切に行うためには・・・、</p>
245	5	<p>また、国際標準を我が国のリードで設定することができれば、産業競争力の向上に大きく寄与することから、ITS 等日本が比較優位になる技術については、積極的な取組を支援していく。</p>	<p>また、国際標準を我が国のリードで設定することができれば、産業競争力の向上に大きく寄与することから、ITS 等日本が比較優位になる技術については、積極的<u>な</u>取組を支援していく。</p>

配付資料との主な変更箇所表

フロンティア分野			配付資料との変更点
配付資料			
頁	行	該当箇所	
266	30	我が国の基幹ロケットであるH - Aロケットについては、1～5号機の連続打上げは成功したが、6号機の打上げに失敗した。	我が国の基幹ロケットであるH - Aロケットについては、1～5号機の連続打上げは連続して成功したが、6号機の打上げに失敗した。
266	31	打ち上げられた衛星の運用開始など	打ち上げられた衛星の運用開始など
267	7	宇宙関係予算については、第2期基本計画期間中減少を続け、ロケットの打上げや衛星の打上げ計画等に遅れが生じるとともに、プロジェクトの信頼性を左右する、熟練技術者の維持・確保や製造設備の維持・更新が困難となる等の影響を与えている。	一方宇宙関係予算については、第2期基本計画期間中減少を続け、ロケットの打上げや衛星の打上げ計画等に遅れが生じるとともに、プロジェクトの信頼性を左右する、熟練技術者の維持・確保や製造設備の維持・更新が困難となる等の影響を与えている問題が生じている。
267	34	打ち上がった後は修正できない	打ち上がった後は修正することが容易ではきない
269	17	デルファイ調査において	デルファイ調査及びそれを基にした専門家の意見ではにおいて
271	4	次世代海洋探査システム	次世代海洋探査システム技術
271	21	・・・第3期計画期間中にH - Aロケット能力向上型・・・	・・・第3期計画期間中にH - B Aロケット能力向上型・・・
271	21	・・・我が国独自の国際宇宙ステーションへの補給手段・・・	・・・我が国独自の国際宇宙ステーションへの我が国独自の補給手段・・・
272	1	先進的なりモートセンシング技術として・・・	先進的なりモートセンシング技術の一つとして・・・

272	10	民生部品の地上試験等 SERVIS-2 の打上げに向け及び宇宙実証を	民生部品についての地上試験等 SERVIS-2 の打上げに向け及び、宇宙実証等を
272	13	次世代海洋探査システム	次世代海洋探査システム技術
273	14	我が国独自の国際宇宙ステーションへの無人輸送機	我が国独自の国際宇宙ステーションへの我が国独自の無人輸送機
272	18	<p>大深度科学ライザー等掘削・技術開発（「ちきゅう」による世界最高の深海底科学掘削技術）</p> <p>（選定理由）新たな資源の探索、地球内部構造の解明、及び我が国の国際競争力の確保のため、地球深部探査船「ちきゅう」による海底下7000mの大深度掘削技術の確立、大深度からマントルまでの試料採取を可能とする大水深掘削技術の開発等に集中的に取り組むことが必要である。</p> <p>資源探査用次世代型巡航探査機の開発</p> <p>（選定理由）従来調査が困難であった海域を含む海底調査を精密・広域に行うため、次世代巡航資源探査機の開発に集中的に取り組むことが必要である。</p> <p>大深度高機能無人探査機の開発</p> <p>（選定理由）日本周辺の海底下の詳細な資源分布図の作成等のため、世界最深部水域（深度 11,000m）まで潜航可能な無人探査機の開発に集中的に取り組むことが必要である。</p>	<p>大深度科学ライザー等掘削・技術開発（「ちきゅう」による世界最高の深海底ライザー科学掘削技術の開発）</p> <p>（選定理由）新たな資源の探索技術、地球内部構造の解明、及び我が国の国際競争力の確保のため、地球深部探査船「ちきゅう」による海底下7000mの大深度掘削技術の確立、大深度からマントルまでの試料採取を可能とする大水深掘削技術の開発等に集中的に取り組むことが必要である。</p> <p>資源探査用次世代型深海巡航探査技術機の開発</p> <p>（選定理由）従来調査が困難であった海域を含む海中及び海底の調査を精密・広域に行うため、次世代巡航資源探査機の開発やに集中的に取り組むことが必要である。——大深度高機能無人探査機の開発（選定理由）日本周辺の海底下の詳細な資源分布図の作成等のため、世界最深部水域（深度 11,000m）まで潜航可能な無人探査機の開発に必要な技術の開発に集中的に取り組むことが必要である。</p>
273	30	「海洋地球観測探査システム」を構築し、我が国周辺及び全地球規模の統合的なデータの収集、処理、解析、分析、提供を行っていく必要がある。このシステムは、我が国が独自に、我が国周辺及び地球規模の災害や危機管理情報および地球観測の情報等をデータセットとして一元的に管理・運用するものであり、我が国が災害や地球環境問題等の解決に積極的かつ主導的に取り組むための基盤となるものである。	「海洋地球観測探査システム」を構築し、我が国周辺及び全地球に関する規模の多様統合的な観測データの収集、統合化処理、解析、分析、提供を行っていく必要がある。このシステムは、我が国が独自に、我が国周辺及び地球規模の災害情報や危機管理情報および地球観測データの情報をデータセットとして作成・提供一元的に管理・運用するものであり、我が国が災害等の危機管理や地球環境問題等の解決等に積極的かつ主導的に取り組むための基盤となるものである。
273	36	宇宙空間より我が国の危機管理等に関する情報を独自に持つ技術	宇宙空間より我が国の安全保障・危機管理等に関する情報を独自に持つための技術

274	6	<p>次世代海洋探査システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大深度科学ライザー等掘削・技術開発（「ちきゅう」による世界最高の深海底科学掘削技術） ・資源探査用次世代型巡航探査機 <p>大深度高機能無人探査機</p>	<p>次世代海洋探査システム技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大深度科学ライザー等掘削・技術開発（「ちきゅう」による世界最高の深海底ライザー科学掘削技術） ・資源探査用次世代型深海巡航探査技術機 <p>大深度高機能無人探査機</p>
274	11	<p>衛星を利用した地球観測システム</p>	<p>衛星を利用した地球観測衛星技術システム</p>